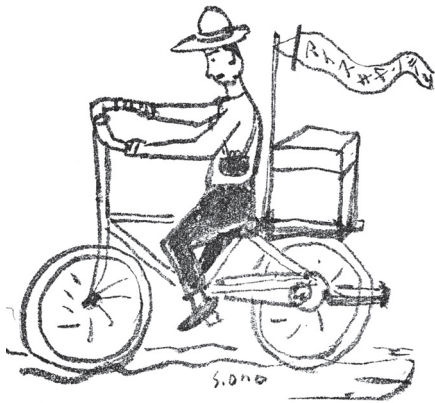


信陽堂の本

暮らしの本、アート、
文芸、エッセイ
ご担当者さま



自動配本はありません
お気軽にご注文ください！

各取次は緻谷書店経由です

水彩で野の草花を描き、匙やかんざしを削り出し、手びねりで土人形を作る。長くレントゲン技師を務めたかわら、自らの美意識に導かれるままにさまざまな作品を生みだし、「セツローさん」の愛称で親しまれた小野節郎さんは、すぐれた書き手でもありました。

軽妙な語り口、
力の抜けた絵の、
小さな愛らしい本が
できました。

続々
追加注文
いただいて
ます！



セツローさんの随筆

小野節郎 文と絵

たくさんのお
きれいなものを
うみだした人

水彩で野の草花を描き、匙やかんざしを削り出し、手びねりで土人形を作る。長くレントゲン技師を務めたかわら、自らの美意識に導かれるままにさまざまな作品を生みだし、「セツローさん」の愛称で親しまれた小野節郎さんは、すぐれた書き手でもありました。

本書にはセツローさんが生前に残した私家版の随筆集2冊から19篇を収録、滋味深く時にユーモラスな語り口で描かれる昔日の光景、家族の思い出、日々のできごと。スケッチや造形作品も合わせて収録しました。巻末には陶芸家の子息、小野哲平氏が父セツローさんとの思い出を描くエッセイを寄稿しています。

B6変形判 (160mm×113mm) 上製176頁
定価 本体 2,000円+税
978-4-910387-05-5 C0095



母の作る漬物のなかで、沢庵漬は最高においしかった。私が漬物を漬けるようになって、母の漬物が、どうしてあんなにうまかったのか、初めて分かった。幼かった日、私は幾度か垣間見たことがある。寒い夕暮れ、漬け終わった糠の上を、母がひたひたと、手のひらで、優しく、愛おむように叩きながら、「おいしく漬かっておくれ」「いいダイコだから、きつと、おいしく漬かっておくれね」と、漬物に話しかける姿を。――「倉」より

Webで簡単発注

BOOK CELLAR



Fax : トランスビュー取引代行
0120-999-968

書店印

セツローさんの随筆

または メール、Fax でお気軽に！

Mail : books@shinyodo.net Fax : 03-6685-4888

〈取引方法 以下からお選びいただけます〉

- ①直取引 ②トランスビュー
- ③緻谷書店 ④子どもの文化

〒113-0022 東京都文京区千駄木3-51-10-2F

お問い合わせ tel. 03-6321-9835 [担当:井上]



ご担当

冊

信陽堂